

20019

下肢末梢血管に対する Laser 治療効果の検証

<sup>1</sup>千葉西総合病院、<sup>2</sup>千葉西総合病院

林 貞治<sup>1</sup>、向田 かおり<sup>1</sup>、布瀬 直人<sup>1</sup>、金子 健二<sup>1</sup>、二階堂 久美<sup>1</sup>、濱野 由紀<sup>1</sup>、倉持 雄彦<sup>2</sup>、三角 和雄<sup>2</sup>

【はじめに】閉塞性動脈硬化症において、膝窩動脈より末梢血管は血管径が小さく、STENT 挿入が困難である。また Balloon すら通過しないケースも多々あり、Balloon のみの治療では限界があると思われる。このようなケースの場合、当院では積極的に Laser 治療を施行している。

【目的】下肢末梢血管に対する Laser 治療の効果を、ABI 及び再治療率にて検証した。

【対象】2007.3.1～2009.7.31 に施行した 122 件（男性 89 名・女性 33 名・平均年齢 64.4±11.0 歳）を対象とした。但し STENT 再狭窄の影響を考慮し、STENT 挿入症例は除外した。

【方法】膝窩動脈：50 件・前脛骨動脈：74 件・後脛骨動脈：45 件・腓骨動脈：22 件・足背動脈：5 件・足底動脈：2 件（延べ件数）に対し、DVX 社製 CVX-300 を用いて Excimer Laser（60-80J：80pulses）及び Ballooning にて治療を施行した。使用した Laser size は 0.9mm：74 本・1.4mm：49 本・1.7mm：13 本・2.0mm：15 本を使用した（size up を含む）。

【結果】治療によって ABI もしくは症状の改善が認められなかった症例は 9 件（7.4%）・同一部位の再治療を要した症例は 13 件（10.7%）、末梢血栓及び血管損傷はなかった。また Risk Factor による有意差は認められなかった。

【結語】Excimer Laser の有効範囲は前方に 0.05mm と短く、照射部位での温度上昇は約 40℃ と少ない為、血栓及び血管損傷はなかったと考えられる。下肢末梢血管への Laser 治療成功率は 82% と高く、Laser の有用性は高いと思われる。